

ファミリーニュース

11 月号
2024

編集発行 カトリック一宮教会事務局広報委員会
〒491-0044 一宮市大宮1-7-1
TEL (0586) 73-4884
FAX (0586) 59-5884
ホームページ版

主よ、永遠の安息を与えたまえ

主任司祭 太田 実

11月2日は死者の日です。この日の10時に行われる記念堂慰霊祭後、一宮教会記念堂納骨壇は閉鎖しますので、納骨壇に新たに納骨することはできません。

現在、記念堂納骨壇にあるご遺骨は、原則として、お引き取りいただくか、名古屋教区の合葬墓に合葬されることになります。

事前にお届けがあった場合は、名義人が亡くなるまで、ご遺骨を納骨壇でお預かりします。

記念堂納骨壇は無許可であり、記念堂の構造も納骨堂としての基準を満たさず、永年の管理運営ができない状況でした。数年前から、一宮教会記念堂納骨壇の利用者の皆さまに説明し、2023年10月1日の一宮教会評議員会で閉鎖を決定しました。

毎週、記念堂内で亡くなったご家族のためにお祈りしてこられた信者の皆さまには、まことに申し訳ありません。

ご遺骨が記念堂になくても、一宮教会で亡くなられた方のプレートが記念堂に設置されています。遺族の皆さまは今後も記念堂でお祈りすることができます。

記念堂閉鎖までの経緯をまとめましたので皆さまにお知らせします。

2021.1.17	記念堂管理委員会	現在の納骨堂は無許可状態（一宮市から納骨堂運営の許可を受けていない）であることの確認 規約の改正は昨年度から検討中だった。
2021.7.11	記念堂管理委員会	管理費未払い・連絡が取れない等問題がある。一時預かりとしての納骨堂はあってもよいが、預り期限を決め、それまでに遺骨を引き上げてもらう方向ですすめていく。
2021.9.30	利用者へお知らせ	慰霊祭案内とともに、記念堂が一宮市の認可を受けていないこと、管理規則が曖昧なため名古屋教区の規定に沿って改めていく方針をお知らせした。

2022.6.5	評議会	記念堂が無認可であること、規約が曖昧であることを報告。今後、責任者、管理者を明確にするために記念堂管理委員会と常任委員で規約改正委員会を設置し、規約の整備をすることを承認。
2022.7.17	規約改正検討委員会①	規約、管理状態の不備を確認
		遺骨を名古屋教区合葬墓地に移していずれはなくしていく方向で進めていく
		現在納骨してある人は無料で教区合葬墓地に改葬できるよう松浦司教が了承
2022.8.21	規約改正検討委員会②	規約の修正案検討
2022.8.21	規約改正検討委員会②	今年の慰霊祭で問題点を説明して利用者の意見を聞き、来年の慰霊祭で方向性を提示する
2022.11.3	第1回記念堂説明会	規定の問題点を確認
		問題点の解消について、改葬、教区合葬墓地の利用などの方法を提示。利用者から意見を聴取
2023.1.8	規約改正検討委員会③	記念堂を閉鎖する方向で検討（規約改正ではなく、閉鎖に向けてのプランを優先）
		「記念堂閉鎖に向けての方策案」作成
2023.4.2	評議会	記念堂委員会で検討の結果、記念堂は閉鎖することに決定、それに向けての説明会を開催することを承認。
2023.6.18	第2回記念堂説明会	「記念堂閉鎖に向けての方策案」を利用者に提示、説明。意見聴取。
2023.8.20	記念堂管理委員会	第2回説明会で出た利用者からの意見について検討。
2023.9.10	記念堂管理委員会	「記念堂閉鎖に向けての方策案」を一部修正し、「記念堂閉鎖に関する使用権返還等手続き」を作成
2023.10.1	評議会	「記念堂閉鎖に関する使用権返還等手続き」の説明。
		記念堂閉鎖、前納管理料などの返金について承認
2023.11.3	第3回記念堂説明会	第2回説明会で出た利用者からの意見について回答
		「記念堂閉鎖に関する使用権返還等手続き」を配布
2024.1.31		「記念堂使用権返還手続き」回答提出期限
2024.3.31		未使用、未納骨納骨壇返還期限
		記念堂管理委員会解散・事務管理は事務局へ移行
2024.5～6		前納管理料、未使用者の使用権料返還



七五三特別祝福のお知らせ



11月17日(日)10時のミサにて七五三祝福式を行います。

該当者にはハガキでご案内しますが、それ以外のお子様もぜひご参加下さい。

ささやかですが、プレゼントを用意してお待ちしています。



女性部よりお知らせ

女性部代表 須藤 喜美

10月13日の「のと支援バザー」に89,046円の支援金が寄せられました。

教会を通してのと支援のために送らせていただきます。

皆様のご協力ありがとうございました。

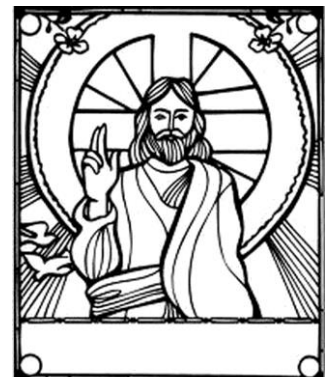


B年 年間第34主日 王であるキリスト 2024.11.24

典礼暦年最後の主日です。この日、教会は「王であるキリスト」を祝います。この祭日は、1925年に、教皇ピオ11世が回勅をもって、「王であるキリスト」の祝日が定められたものです。時代はまさに、ドイツではヒットラー、イタリアではムッソリーニ、ソビエトではスターリンと独裁体制を固めているところでした。

教会は、終末主日に世の終わりについて考察してきました。今日、この祭日を祝って、世の終わりが滅びの時ではなく、神の国の完成の時であること、キリストが宇宙の支配者であること、この王であるキリストが再び来てくださる喜びの時であることを祝います。こうして典礼サイクルを終え、次週から新しい典礼暦年がはじまります。

「王」とは、王政に生きたことのない私たちには分かりにくいイメージなのかもしれませんが、王はもともと「メシア」つまり、神に選ばれて油を注がれ、王とされたという意味です。新約聖書では、これを忠実に訳して「キリスト」と呼びます。私たちに親しい「キリスト」という名は、イエスこそ真の意味で王であるということなのです。



◆ 女子パウロ会公式ホームページ「Laudate」より引用 ◆

https://www.pauline.or.jp/calendariocappella/cycleB/b_ord34sun.php

訃報



印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

2024年10月20日帰天



印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

2024年10月23日帰天



永遠の安息をお祈りいたします

2024年11月のミサの意向 (10月23日までの申し込み分)

印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。



公式ラインの
登録はこちらから



公式ホームページもぜひご活用ください。

カトリック一宮教会

検索

